

2021年度 決算について

2021年度は、第3期中期計画の最終年度でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、一部、事業の縮小や中止を余儀なくされた事業もあり、支出面においては予算額を下回りました。

このような状況の中、取り組んだ主な事業としては、病院・薬局実務実習対象者のPCR検査の実施、また、新型コロナワクチンの職域接種の実施等です。加えて、躬行館の外壁工事、多目的トイレの設置工事、LED照明器具への更新工事等、施設面での整備も行っています。

一方、収入面においては、予算額を上回りました。これは、補助金収入、受取利息・配当金収入を除く主な収入が予算額を上回ったことによるものです。

○ 資金収支計算書

(1)収入の部

学生生徒等納付金収入は、4,272,769千円と予算額を70,396千円上回りました。手数料収入は、志願者数の微増等により予算額を6,947千円上回りました。一方で、補助金収入は、私立大学等改革総合支援事業に採択されたことにより、経常費補助金は増額となりましたが、研究設備の募集がなかったことにより、施設整備費の補助金が予算額を下回り、補助金収入は546,041千円となりました。

付随事業・収益事業収入は受託事業の増加に伴い、予算額よりも7,553千円上回りました。また、雑収入においては前述の受託事業の増加に伴う間接経費や、新型コロナワクチンの職域接種に係る国からの負担金等により予算額を27,499千円上回りました。

(2)支出の部

人件費は、僅かに予算額を下回り、1,984,648千円となりました。教育研究経費は、予算額を下回り1,519,731千円となりました。

管理経費支出は予算額を下回り381,288千円となりました。施設関係支出では、躬行館2階、3階の多目的トイレ増設工事、学術系無線LANの追加整備等で、予算額を上回り、80,408千円となりました。設備関係支出では、共同利用機器の購入や、事務局のパソコンのリプレイス等で175,920千円となりました。資産運用支出は、組入計画に基づく組入や、事業債の購入などで、3,592,211千円となりました。以上により、翌年度繰越支払資金は、3,484,313千円となりました。

○ 事業活動収支計算書

(1)教育活動収支

「教育活動収支」は、学校法人の本業である教育研究事業の収支を表しています。学生生徒等納付金収入(4,272,496千円)の経常収入(5,199,627千円)に占める割合(学生生徒等納付金比率)は82.2%で、補助金収入(487,000千円)の経常収入に占める割合9.4%(経常費補助金比率)と合わせると91.6%となり、本学の収入の大部分を占めています。

教育活動収支における事業活動支出においては、人件費(1,981,249千円)の経常収入に占める割合(人件費比率)は38.1%です。また、教育研究経費は2,242,094千円となり、経常収入に占める割合(教育研究経費比率)は43.1%となりました。

(2)教育活動外収支

「教育活動外収支」は、経常的な収支のうち教育活動以外の収支で主に財務活動の収支を表しています。

本学は、債券、投資信託、定期預金等の受取利息・配当金収入のみで、教育活動外収支差額は134,291千円となりました。経常収支差額（教育活動収支差額+教育活動外収支差額）は502,730千円となり、経常収支差額比率（経常収入に占める経常収支差額の割合）は9.7%となりました。

(3)特別収支

「特別収支」（特殊な要因によって一時的に発生した臨時的な収支）の特別収支差額（特別収入－特別支出）は77,804千円となりました。

(4)事業活動収支差額比率

事業活動収入は、5,282,863千円、事業活動支出4,702,328千円となり、基本金組入前当年度収支差額は、580,535千円、事業活動収支差額比率（事業活動収入に占める基本金組入前当年度収支差額の割合）は11%となりました。

(5)基本金の組入れと翌年度繰越収支差額

基本金は、第1号基本金に287,669千円、第2号基本金には、教育研究総合センター等の整備費として507,367千円を組入れました。また、第3号基本金には奨学基金に7,682千円、第4号基本金には17,000千円を組入れるなど、計819,719千円の基本金組入となりました。この結果、当年度収支差額は△239,183千円となり、前年度からの収入超過額742,797千円を加え、翌年度繰越収支差額は503,614千円となりました。

○貸借対照表

(1)資産の部

有形固定資産は、設備整備や教育研究用機器備品の購入よりも、減価償却額が多かったため、前年比539,537千円減の12,574,768千円、特定資産は、第2号基本金引当特定資産の計画的組入等により、前年比1,101,405千円増の21,611,074千円となりました。また、流動資産は、前年比109,272千円減の3,731,154千円となり、その結果、資産の部合計は、前年比439,754千円増の38,039,538千円となりました。

(2)負債の部

負債のうち、固定負債902,499千円は長期未払金、退職給与引当金を計上しています。流動負債882,720千円は、未払金、前受金、預り金を計上しています。この結果、負債の部合計は1,785,219千円となりました。

(3)純資産の部

基本金819,719千円を組入れ、基本金の合計は35,750,704千円となりました。繰越収支差額は503,614千円となり、その結果、純資産の部合計は前年比580,535千円増の36,254,318千円となりました。

○財務状況の分析

事業活動収支決算をみると、収入全体では予算に対し、約94百万円の増加となっています。

一方、支出面においては、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、一部、事業の縮小や中止を余儀なくされた事業もあり、予算に比べ177百万円の減少となりました。

この結果、事業活動収支差額比率は11%となり、目標水準を維持しています。

○財務上の課題、今後の方針・対応方策

本学は、2004年から株式会社格付投資情報センター（R&I）の格付「AA-（ダブルAマイナス）」を取得しており、2021年度も「AA-」を更新しました。2021年度の格付調査においては、全国的に薬学部の入試をめぐる環境は厳しく、本学もその影響を受けているものの、教育力の高さや私大薬学部トップクラスの就職実績に加え、コロナ禍においても継続的な修学環境を提供できていること、また、収支が良好で財務も健全であるとの評価を受けています。

さらに、日本私立学校振興・共済事業団が公表している「経営判断指標」に基づく分析でも、本学の経営状態は正常状態にあり、安定していると言えます。

「京薬ブランド」の確立注を目指し、「大学の価値を高める」ため、2022年度から始まる第4期中期計画を中心に必要な原資や設備投資を安定的に確保することが重要な課題となることから、事業活動収支差額比率（事業活動収入に占める基本金組入前当年度収支差額の割合）が今後も10%程度の水準を維持することを目標としています。

注) 6年制薬学教育を更に進化させるため、“Science（科学）”、“Art（技術）”、“Humanity（人間性）”を基盤とする教育・研究システムの構築と展開を踏まえた、「卓越した科学的思考を基盤とする自発的探究心の深化」と、「医療・薬学の枠を超えて多領域で活躍する人材の育成」へ、すなわち社会の変化に先んじて、薬学の発展を先導するための進化のこと